

きらりと光るアイランド みしま

第Ⅱ期三島村まち・ひと・しごと創生総合戦略



竹島



硫黄島



黒島

令和2年6月1日
鹿児島県三島村

目 次

1 総合戦略策定の考え方	1
(1) 背景と目的	1
(2) 人口ビジョンにおける将来展望	4
(3) 三島村のこれまでの取組と戦略策定の考え方	7
2 基本方針	8
3 基本目標と主要施策	9
(1) 基本目標①	
稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする	9
(2) 基本目標②	
地方とのつながりを築き、島への新しい人の流れをつくる	11
(3) 基本目標③	
結婚・出産・子育ての希望をかなえる	13
(4) 基本目標④	
人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる	14
4 計画の推進に向けて	17

1 総合戦略策定の考え方

(1) 背景と目的

三島村は、薩摩半島南端の長崎鼻から南南西約 40km に位置する、竹島・硫黄島・黒島の3島からなる集合村で、2015年の国勢調査の人口は407人です。これは、鹿児島県内で43市町村中43位と、最も小さな自治体です。

2019年末現在（住民基本台帳ベース）の人口は366人と減少しています。

国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研という。）の地域別将来推計人口では、今後についても漸減傾向が続き、2040年には296人まで落ち込むと推計され、人口減少は村政において最重要課題となっています。

国でも、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）に基づき2019年12月には、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）」及び第Ⅱ期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が示され、人口の減少に歯止めをかけること及び東京圏への人口の過度の集中を是正することが明確に示され、地方自治体にもそれぞれの特徴を生かし地方創生に向けた取り組みを求めています。

平成27年10月に総合戦略を策定し、目標を定め取り組んできましたが、実績について第三者を交えて検証した結果を踏まえ、第Ⅱ期の人口ビジョンや総合戦略の策定を行いました。

検証結果を踏まえ、三島村人口ビジョン（以下、人口ビジョンという。）では、人口の現状分析等を行い、村が存続し、発展していくための人口の将来展望として、2025年では400人、さらに2050年に450人まで回復することを目標としています。

この第Ⅱ期三島村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、総合戦略という。）では、人口減少問題の克服と村の成長力を持続的に確保し、“小さくてもきらりと光る村づくり”（きらりと光るアイランド みしま）の実現に向けて、当面は2025年までの基本目標を掲げ、主な重要業績評価指標（KPI）を設定し、戦略的な施策をとりまとめているものです。

総合戦略は、村民をはじめとして産官学金労言等の多様なプレーヤーとの連携のもとで立案・実践し、評価・改善・見直し（PDCAサイクル）を進めることとし、「政策の5原則」（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）の趣旨を踏まえて、積極的に展開してまいります。

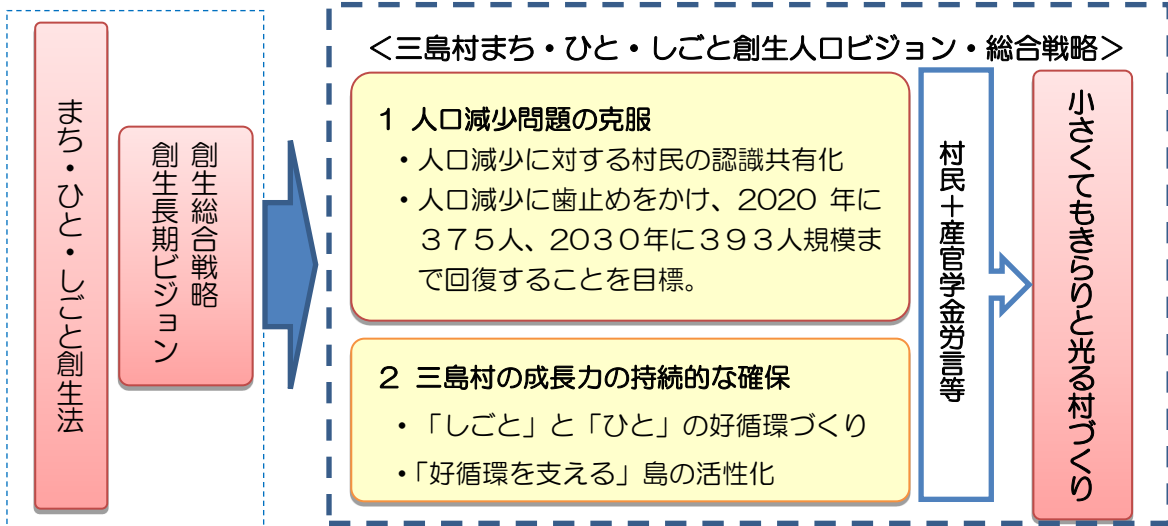
【三島村の位置・各島の概要】



- 三島村は、竹島、硫黄島、黒島の三つの島から成り、東南に種子島、屋久島が横たわり、南にトカラ列島、西に草垣群島を望む位置にあります。
- 他にない特殊な自然環境と歴史・文化的資源の保存と活用が評価され、2015年9月に日本ジオパークに認定されました。
- 村営船みしまが週4便運航し、1泊2日の航海が2便、日帰り片道航海が2便運航しています。空路は、2015年4月より鹿児島空港と硫黄島の区間をセスナ機が週2往復しています。
- 役場は鹿児島市に置いています。

島名	特徴
竹島	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲 9.7km、面積 4.2km²で、最も高い山でも 220m という平坦な島で、竹島という名のごとく島全体が竹に覆われた畜産の盛んな島である。 ・豊富な竹林から取れる竹の子の王様「大名竹の子」は、村の特産品に加工され、その味の良さから来村者のお土産に喜ばれている。
硫黄島	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの島の間際に位置し、周囲 14.5km、面積 11.7km²、椿、つつじ、車輪梅の原生林や、野生化した孔雀が街中を闊歩するのどかな風景が見られる島である。 ・西アフリカの伝統的な打楽器ジャンベを通じた国際交流が展開されている。 ・故中村勘三郎一門による野外歌舞伎「俊寛」、及び梅若玄祥師による三島村新能「俊寛」この島で上演され、話題となった。 ・硫黄島八朔太鼓踊りに登場するメンドンがユネスコの無形文化遺産となった。
黒島	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲 15.2 km、面積 15.3km²、標高 622m の櫓岳を最高峰に、500m 級の山々がそびえ、断崖絶壁の海岸線には、無数の滝が見られる森林と大名竹に覆われた自然豊かな畜産の盛んな島である。 ・東西に大里と片泊の二つの集落があり、村の人口の約半数が居住する。 ・自然が豊かな環境にあることから国指定の天然記念物の植物群落がある。 ・昭和 34 年、作家有吉佐和子さんが朝日新聞に連載した小説「私は忘れない」の舞台で、昭和 35 年に映画化された地である。また、戦時中の特攻秘話等がある。 ・最近では、縄文時代の土器の破片が発掘されるなど歴史的価値が高まっている。 ・平成 30 年公設公営の焼酎蔵「みしま焼酎 無垢の蔵」が建設され、令和元年 5 月 1 日に新酒の初蔵出しを行った。今後、地域の一大事業として期待されている。

【総合戦略策定の背景と目的（展開図）】



(2) 人口ビジョンにおける将来展望

将来の人口は、人口の現状と課題からみた基本的な視点を踏まえつつ、社人研推計準拠を基準指標として展望しています。

■ 人口の現状と課題からみた基本的な視点

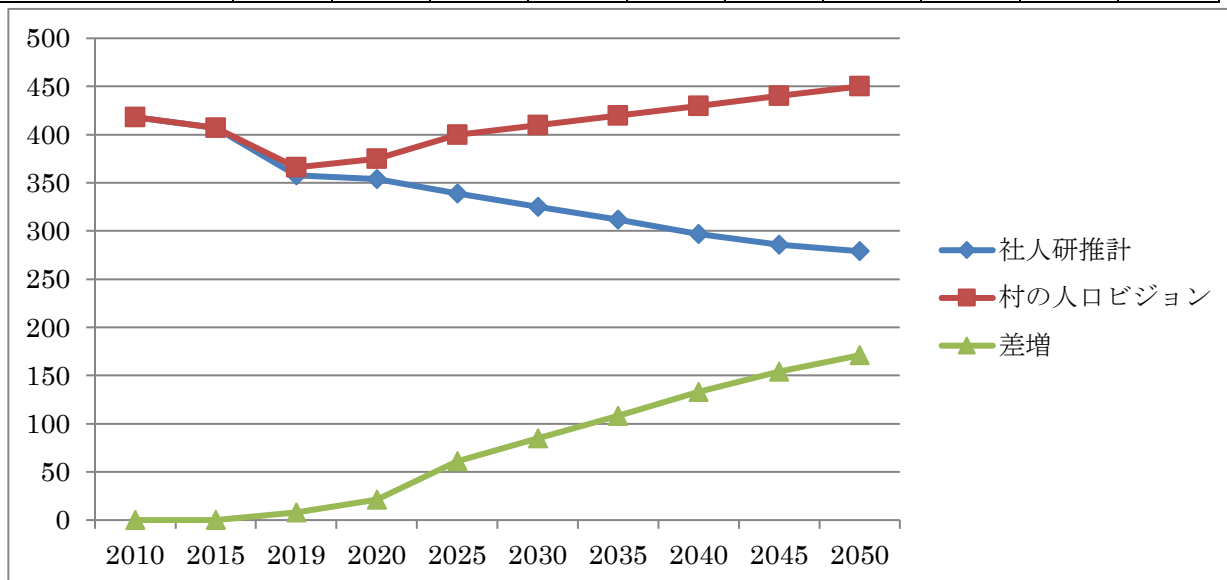
- ①各島に人が住み続け、地域社会の基盤を維持・活性化できるような人口規模の拡大
- ②産業振興と雇用創出による社会増への取組推進
- ③若い世代の定住と子育て環境の改善による出生数の増加
- ④しおかぜ留学制度による児童・生徒の計画的な受け入れ
- ⑤村民が長く住み続けたいくなるような満足度の向上
- ⑥人口の将来展望に対応する住宅政策の拡充

■ 人口の将来展望

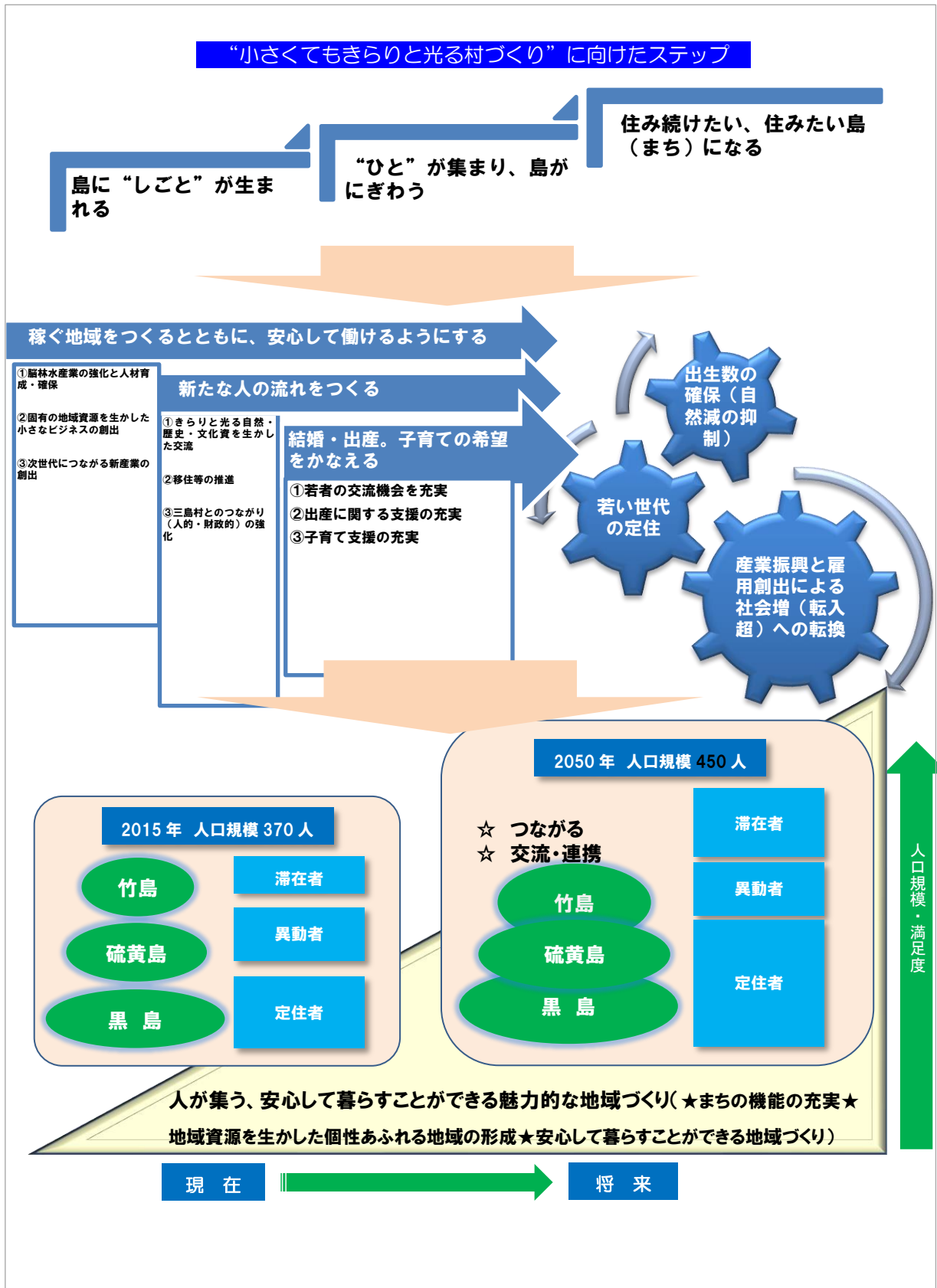
三島村が目指すべき人口規模を 2025年に 400 人、2030 年に 410 人、2040 年に 430 人、2050 年に 450 人と展望し、人口減少に歯止めをかけ、各島の地域社会の基盤を維持できるような人口規模の拡大を目指します。

三島村将来人口推計

年	2010	2015	2019	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
社人研推計	418	407	358	354	339	325	312	297	286	279
村の人口ビジョン	418	407	366	375	400	410	420	430	440	450
差増	0	0	8	21	61	85	108	133	154	171



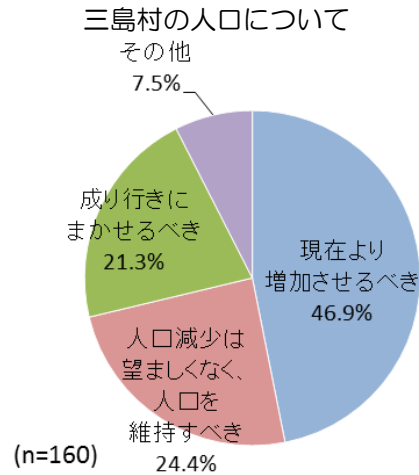
人口増加の展開イメージ図



【村民アンケートより（2015年7月実施、以下同じ）】

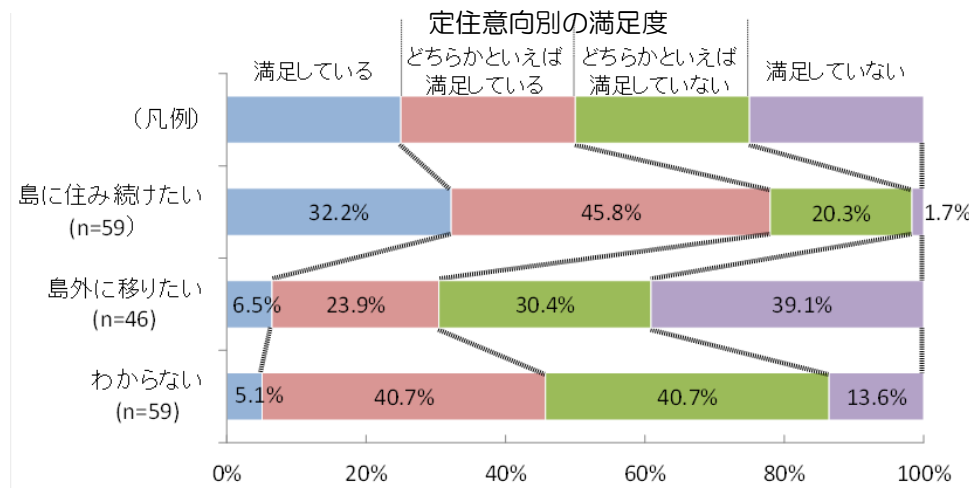
■人口減少に関する認識

三島村の人口について、「現在より増加させるべき」が46.9%と最も多く、次いで「人口減少は望ましくなく、人口を維持すべき」が24.4%、「成り行きにまかせるべき」が21.3%となっています。



■定住意向と満足度

定住意向についてみると、「島に住み続けたい」が35.3%、「島外に移りたい」が27.5%、「わからない」が37.1%となりました。定住意向と満足度の関係を見ると、「島に住み続けたい」では、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた78%が満足としていますが、「島外に移りたい」ではその割合は30.4%となっています。



(3) 三島村のこれまでの取組と総合戦略策定の考え方

三島村では、2010年度（平成22）から2019年度（平成31）までの10年間を計画期間とする第4次三島村総合振興計画において、「多様化する住民の要望に応えつつ、小離島といえども、三島村のみが持つ優位性と特性を更に探究し、その潜在能力を掘り起こして、健康で豊かに安らげる三島村に創生する道を開き、発展させる」との方針をかかげ、各種施策を展開してきました。そうした活動のなかから、ICT推進のベースとなる高度情報通信ネットワークの構築や三島村・鬼界カルデラジオパーク認定、硫黄島八朔太鼓踊りに登場するメンドンのユネスコ無形文化遺産登録等、三島村のみが持つ優位性と特性を生かせる分野も生まれています。

Ⅱ期総合戦略の策定においては、Ⅰ期の総合戦略の評価検証を踏まえ、かつ国の地方創生の考え方を勘案しつつ、基本目標を掲げ、村民の各分野の取組に対する満足度及び重要度を参考にしながら、具体的な施策を展開します。

第4次三島村総合振興計画における基本方針

- I. 無垢の自然が息づくかけがえのない郷土を建設する村づくり
- II. 島の特性を生かした産業振興を進める村づくり
- III. 健康と福祉の村づくり
- IV. 定住交流と人材を育てる村づくり
- V. 創造性と自立心を高める村づくり
- VI. 効率行政を進める村づくり
- VII. 水害、風害その他の災害を防除するために必要な国土保全施設等の整備



※好循環を支える、まちの活性化
※「しごと」と「ひと」の好循環づくり

【第Ⅱ期地方創生総合戦略に関する国の基本目標】

- I 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする
- II 地方とのつながりを築き、新たなひとの流れをつくる
- III 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- IV ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

2 基本方針

国の基本目標の考え方や地域性を勘案し、以下の4つの基本目標を設定し、“小さくてもきらりと光る島づくり”に取り組み、「きらりと光るアイランド みしま」の創生を目指します。当面の目標として、令和2年度（2020年）から令和6年度（2024年）までの5年間で短期目標として設定し、施策を展開します。

目指す姿と4つの基本目標

「きらりと光るアイランド みしま」の創生

小さくてもきらりと光る村への夢を掲げて

基本目標① 稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする

- 農林水産業の強化と人材育成・確保
- 固有の地域資源(自然資源)を生かした小さなビジネスの創出
- 次世代につながる新産業の創出

基本目標② 地方とのつながりを築き、新たなひとの流れをつくる

- きらりと光る自然・歴史・文化資源を生かした交流促進
- 移住等の推進
- 三島村とのつながり（人的・財政的）の強化

基本目標③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- 若者の交流機会を創出
- 出産に関する支援の充実
- 子育て支援の充実

基本目標④ ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

- 質の高い暮らしのための地域の機能の充実
- 地域資源を生かした個性あふれる地域の形成
- 安心して暮らすことができる地域づくり

3 基本目標と主要施策

(1) 基本目標①

稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする

【数値目標】

指 標	基 準 値	目 標 値 R6年度
農林水産業生産額	13,540 万円	17,670 万円

【基本的方向】

三島村の主要な産業は、教育関係を除けば、畜産を主とする農業、公共工事を主とする建設業、民宿を主とする宿泊業が中心となっています。小規模離島のため産業基盤が極めて脆弱で、また、高齢化により廃業する事業者もみられ、農林水産業等の基盤産業の強化と人材の育成・確保が急務となっています。特に畜産業にあっては、兼業経営から専業経営への取り組みが重要な課題となっています。また、三島村・鬼界カルデラジオパークやメンドンのユネスコ無形文化遺産など、観光業を支える資源の利活用も課題であります。

更には、椿油関連商品や大名筍、海産物、黒島みかんを使った菓子などの特色ある特産品が生まれており、このような固有の地域資源(自然資源)を生かした小さなビジネスを女性の発想や高齢者の知恵を活かしながら創出することを推進します。

さらに、2018年10月に黒島に公営の焼酎蔵を建設し、翌年5月から村内産のサツマイモと黒島の清らかな水で製造された「焼酎みしま村」の販売をスタートしており、焼酎みしま村の10キロリットル生産に向けて原料サツマイモの増産が重要です。また、新たな雇用の受け皿として期待されています。

硫黄島では、椿の実の搾油事業や竹林オーナーの整備管理を中心に事業展開する会社が設立されました。このような新たな産業の開発等を積極的に進め、魅力ある雇用の場の創出を目指します。

【具体的な施策・取組内容と重要業績評価指標（KPI）】

① 林水産業の強化と人材の育成・確保

《KPI》

	基準値	R6年度
農林水産業生産額の増	12,300万円	16,000万円
認定農家	—	5戸認定
大名たけのこの収穫増	260万円	520万円
ツバキの実収穫増	60万円	120万円
サツマイモの収穫増	120万円	300万円
漁業水揚げ額	800万円	1,000万円

《具体的な施策・取組内容》

(ア) 畜産農家の経営規模拡大と施設の整備 (イ) 畜産農家の生産計画の策定支援 (ウ) 大名筍の収穫の増加 (エ) ツバキの実の収穫の増加 (オ) サツマイモの収穫の増加 (カ) 漁場づくりと蓄養による不安定操業環境からの脱却

② 固有の地域資源を生かした小さなビジネスの創出

《KPI》

	基準値	R6年度
新たな特産品の開発件数	—	1件/年増

《具体的な施策・取組内容》

(ア) 特用林産物を使った新たな特産品の開発 レトルト食品の商品化、保湿クリーム等の製造・開発など (イ) 各地区で食べられていた加工品の製品化 地区、漁協等と連携し、加工品の製品化を推進、女性や高齢者が参画し、知恵と新たな技術で事業展開 (ウ) 加工拠点施設整備
--

③ 世代につながる新産業の創出等

	基準値	R6年度
みしま焼酎無垢の蔵の経営安定化	7.2キロリットル製造販売	10キロリットル製造販売
産業統合会社の経営の安定化雇用確保	常勤雇用0人	常勤雇用1人

《具体的な施策・取組内容》

- (ア)「焼酎みしま」の島内生産
焼酎の増産および販売促進
- (イ) 産業統合会社の経営の安定化

(2) 基本目標②

地方とのつながりを築き、新たなひとの流れをつくる

【数値目標】

指 標	基 準 値	目 標 値 R6年度
移住者数	—	40人

【基本的方向】

3つの島はそれぞれの成り立ち、自然環境は異なりますが、先祖から受け継がれた歴史・文化があり、それが固有の観光資源となっています。また、毎年40艇以上のヨットが全国各地から参加する「MISHIMA CUP」ヨットレースや、西アフリカの打楽器ジャンベを使ったワークショップなど独自の行事が開催されており、2018年には硫黄島の八朔太鼓踊りに登場する来訪神メンドンがユネスコ無形文化遺産に登録されました。

2015年9月には、特異な自然環境と歴史・文化的資源の保存と活用が評価され、日本ジオパークに認定されました。これを契機に三島村の認知度が高まり、観光客や探究心のある来島者の増加が期待されています。ジオパーク活動では、三島村の新たな魅力と観光資源を発掘するだけでなく、地域資源の保全や文化の継承を行い、観光や教育などで活用するまでを一貫して行っています。

ジオパーク事業をはじめ観光、産業、文化、教育、広報など様々な分野を横断的につなぐことで効率的な行政運営を図り、多様な来島者のニーズに対応した新たな人の流れをつくります。

このように個性ある3つの島への新たな人の流れが生まれつつありますが、これを円滑に推進するためには、宿泊施設の整備とともにそれらを支える人材が不可欠であります。このため、島に移住する若者等への定住助成制度の充実と住宅の環境確保並びに専門人材としての地域おこし協力隊を積極的に受け入れてまいります。

こうしたことを側面的に支援する施策として、人的・財政的支援を可能にする関係人口等の強化に努めてまいります。

【重要業績評価指標（KPI）と具体的な施策・取組内容】

①きらりと光る自然・歴史・文化資源を生かした交流促進

《KPI》

	基準値	令和6年度
観光目的乗船者数	1,050人/年	1,500人/年
新規イベント参加者数	20人	100人

宿泊施設数	民宿 12 軒	民宿等 15 軒
-------	---------	----------

《具体的な施策・取組内容》

(ア) ジオパークを活用した観光交流の拡大 ジオツーリズム、体験ツアーの実施（船釣り、ダイビング、カヤック等）
(イ) 観光ツアー等の開催 地域に受け継がれる伝統芸能のツアー企画化
(ウ) 多様なニーズに応える宿泊施設の整備

②移住等の推進

《KPI》

	基準値	R6年度
住宅の整備	—	10戸新設
既存村住の計画的改修	3戸	15戸改修
地域おこし協力隊の受け入れ	2人配置	8人配置
農林水産業者の受け入れ	0人	累計5人

《具体的な施策・取組内容》

(ア) 村営住宅の計画的な整備
(イ) 村営住宅の現況調査に基づき必要な改修を計画的に行い、住環境の改善を推進
(ウ) 地域の産業等を支援するための地域おこし協力隊を各地区に適切配置
(エ) 農林水産業の振興を図るため、島外からの従事者の受け入れの推進

③三島村とのつながり（人的・財政的）の強化

《KPI》

	基準値	R6年度
竹林オーナーの確保	10人	新規に50人
ふるさと納税寄付金	800万円	2,000万円

《具体的な施策・取組内容》

(ア) 竹林オーナー用の竹林を整備し、竹林オーナーを募り、来島の機会をつくり関係人口として活躍を期待
(イ) ふるさと納税の強化 ふるさと納税の返礼品の拡大等を通じて寄付金の大幅拡充を目指す

(3) 基本目標③

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【数値目標】

指 標	基 準 値	目 標 値 R6年度
新規子育て世帯数	-	5世帯（累計）

【基本的方向】

三島村の出生数は、近年では0～3人で推移しており、死亡者数を下回り、自然減が続いています。また、村民アンケートでも、子どもを1人より2人、2人より3人と欲しがる意向はあるものの、経済的な要因や保育サービスなどの支援体制が不十分との理由で出産に踏み切れないことがうかがえます。

こうしたことから、将来的には年間2～3人の出生を実現していくため、若い世代の交流機会の創出や医療や子育て環境が十分でない島での出産、子育てに関する不安の解消と支援を実施します。

【重要業績評価指標（KPI）と具体的な施策・取組内容】

①若者の交流機会を創出

《KPI》

	基準値	R6年度
婚姻届け数	—	3組（累計）

《具体的な施策・取組内容》

（ア）独身男性を対象とした出会い交流機会の提供

②出産に関する支援の充実

《KPI》

	基準値	R6年度
出産支援件数	4件	5件/年

《具体的な施策・取組内容》

（ア）定期健康診断の支援
（イ）出産準備支援

③子育て支援の充実

《KPI》

	基準値	R6年度
教育・保育施設の一体的運用	0か所	1か所

《具体的な施策・取組内容》

（ア）小規模保育所の整備と保育士の確保

(4) 基本目標④

ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

【数値目標】

指 標	基準値	目 標 値 R6年度
「住み続けたい」とする人の割合 (村民アンケート)	35%	50%

【基本的方向】

三島村は、竹島、硫黄島、黒島の3島によって構成されており、役場が行政エリアにない特異な村です。鹿児島と各島のアクセスは、海路は、フェリーみしまが毎週、日帰り便2便と1泊2日便2便の計4便が運航されております。空路は、2015年4月より鹿児島空港と硫黄島の区間をセスナ機が週2往復するようになり、海路と空路の相互利用も可能となっています。

また、2017年4月から「有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法」が施行されたことにより、村民等の航路及び空路の運賃が割り引かれることとなりました。料金の低減化により、利用しやすい環境になりましたが、運航等は天候に左右されることが多く、各港の整備が課題となっております。

島内の村道等の安全な走行環境を確保する観点から計画的な維持補修等を行います。

一方で、固有の自然や歴史、文化を学び、体験するニーズが高まるなかで、幼少期の一時期を三島村で過ごしたいとする児童生徒をしておかせ留学制度で受け入れており、子供の成長に有益であることから拡充が期待されています。

三島村、三島村教育委員会と大学が提携して教師を目指す学生を村の義務教育学校に受け入れ、離島における教育及び生活体験・交流等を通して三島村の教育課題の解決に資する活動を展開してもらい「元気みしま村」の具現化を図っていきます。

「三島村・鬼界カルデラジオパーク」は2020年の再認定審査において条件付き認定となったことから、条件に示された課題の解消に努めることが重要です。

地域の特色としてジャンバスクールを開設しており、ジャンベの振興も必要です。

離島で生活する村民は、医療や介護・保健サービスをはじめとして、本土では想像できない不自由さの中にいます。また、限られた集落のなかで、交流機会も少なく、安定した収入の確保にも難しさがうかがわれ、村民アンケートでもいずれは島を離れたいとする向きもあります。また、島で使用する自動車の燃料は鹿児島から個人が取り寄せているが安全安心の観点から島で購入環境の整備が求められています。

一方、村役場が鹿児島に所在することから、3つの島の4地区に、村の出張所をはじめ、学校、診療所、コミュニティーセンター、港湾施設等、それぞれ4箇所を設置し、職員を

配置するなど島民の利便性の確保に配慮しています。また、地理的に台風の常襲地帯であり、防災対策は常に大きな課題となっています。

住み慣れた地区で村民が健康で豊かに安らげるように、ICTの活用により村民一人一人がつながる関係の構築や、人的・物的つながりが長年にわたり構築されている鹿児島市との連携等を通じて豊かさを享受できる環境づくりに取り組みます。

また、教育環境の充実とともに、しおかぜ留学生を受け入れる里親の確保やしおかぜハウスの整備等を通じて雇用の場の開発を行います。

【重要業績評価指標（KPI）と具体的な施策・取組内容】

① 質の高い暮らしのための地域の機能の充実

《KPI》

	基準値	R6年度
フェリーみしまの就航率	93%	94%
薩摩硫黄島空港の利用者	100人	120人/年
ガソリンスタンド整備	—	1か所
村道舗装改修	600M	整備距離 3,000M

《具体的な施策・取組内容》

<p>(ア) フェリーみしまの計画的運航 フェリーみしまにおける鹿児島～三島～枕崎航路の安全かつ安定的な接岸を確保するため、竹島港、大里港、片泊港の市町村管理港の整備を推進</p> <p>(イ) 鹿児島空港と硫黄島の区間の空路の活用 薩摩硫黄島飛行場における施設全体の機能強化整備を推進</p> <p>(ウ) 島内道路（村道・林道・農道）の整備 住民の生活道路として利用されているため、災害に強い道路環境整備や強化を促進</p> <p>(エ) 島民の安全・安心の確保 各島にガソリンスタンドがないことから航路によりガソリン等を確保しているが安全・安心の確保の観点からガソリンスタンドの整備を計画的に進める</p>
--

② 資源を活かした個性あふれる地域の形成

《KPI》

	基準値	R6年度
しおかぜ留学生	23人	40人
ジオ・歴史文化ガイド数	0人	10人
学術研究者の来島支援 （船運賃助成）	33人	40人/年
里親	7戸	9戸

《具体的な施策・取組内容》

(ア) しおかぜ留学生の受入拡大 (イ) ジオパークに関する村民研修会の開催とジオガイドの養成 (ウ) ジオパーク関係の研究活動推進 (エ) 大学を含む教育関係機関と連携したジオ関連教育プログラムの開発・実施 (オ) 義務教育学校の充実・強化 特色ある教育の推進 (カ) ジャンベの振興

③ 安心して暮らすことができる地域づくり

《KPI》

	基準値	R6年度
常駐看護師の複数配置	各1から2人	各2人
避難所機能の充実	3日分	非常食等の1週間分配置
地域の人事部の設置	—	各地区に設置

《具体的な施策・取組内容》

(ア) 診療所機能の充実 (イ) 地域防災機能の確保 (ウ) 日常生活用具等の給付及び貸与 (エ) 各種在宅サービス等の推進 (オ) 村民の自助・共助の助け合いネットワークの形成

4 計画の推進に向けて

人口規模が極めて小さい三島村において、総合戦略を推進していくためには、まず3つの島、4つの地区の村民と行政が人口減少を克服し、地域を創生推進するという意識の共有化が最も重要です。そのうえで、村民が主体となり、国、県および村の支援を受けながら、官（行政）だけでなく、産業界、大学、金融機関、労働団体、メディアの産官学労言の連携のもと、積極的に推進する必要があります。

特に、村の職員にあっては、これまで以上に島民の主体性発揮のため、必要な支援のあり方等を工夫するとともに、そのために必要な資質向上に努めることが求められます。

また、総合戦略の進捗管理においては、PDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルの実践によるものとし、年度ごとに事業の選定、実施方法等の検討、事業の予算化、実施に取り組みます。さらに、事業実施後もその効果を測定・検証し、事業の改善、進捗状況等によっては、基本戦略についても、見直しを行います。このため、観光交流部会、しごと部会、定住推進部会及び豊かな地域づくり部会を設けて、PDCAサイクルを確実なものとしします。

なお、財政状況や社会経済環境の変化に柔軟に対応しながら、より一層、村民の声を踏まえた形での総合戦略の見直しを適宜行ってまいります。

【総合戦略推進に向けた体制イメージ図】

